

俳優・演出家養成セミナー

# 演劇大学

2011  
in

# しものせき

全国各地で行われている演劇大学が昨年3月に続き今年も下関に上陸！  
今年度は地元の演出家・俳優・ダンサー・音楽家が日本演出者協会の演出家とタッグを組んで一緒に作品を創り最終日に発表することをメインに開催します。もちろん、初心者の方の講座・ワークショップもあります。演劇鑑賞を楽しみたい人もぜひご参加ください！！

## 講師



### ■ふじたあさや

1934年東京生れの劇作家・演出家。1953年に福田善之と合作で『富士山麓』を発表。放送作家をへて、三十人会を皮切りに劇作・演出で活躍。代表作に『日本の教育1960』（三十人会）、『さんしょう太夫』（前進座）『サンダカン八番娼館』（文化座）『臨界幻想』（青年劇場）作演出に『しのだつま考（芸術祭賞受賞）』（京楽座）、『ペッカコンおに』（えるむ）、演出に『うたよみざる』（歌座）などがある。児童劇・ミュージカル・オペラなど多分野で活躍。ロシア・中国・韓国とも合作、地域演劇にも貢献。日本演出者協会元理事長。昭和音楽大学客員教授。



### ■福田善之

1945年、東京で三月と五月に空襲を体験。同50年よりこの道に。59年、戯曲「長い墓標の列」岸田戯曲賞佳作。以後、「真田風雲録」(62)「オッペケベ」「袴垂れはどこだ」(63)「希望-幕末無頼篇」(90)等。94年「壁の中の妖精」紀伊国屋演劇賞。95年「私の下町-母の写真」読売文学賞、芸術祭賞。01年紫綬褒章。74年中岡慎太郎を軸に高杉晋作、久坂玄瑞らを描いた歴史小説「草莽無頼なり」(乱雲篇)を発表。2010年「颯風篇」「光芒篇」を書きついで朝日新聞出版より刊行。四十年の宿願を達した。(撮影：姫田蘭)



### ■ペーター・ゲスナー

(Peter Goessner 1962年～)旧東ドイツ出身。国立ベルリン俳優学校エルンスト・ブッシュで学び、ハレのターリア劇場で4年間演出、俳優を勤める。ライプチヒ大学で演劇学修士取得。1993年来日後北九州市を拠点に劇団「うずめ劇場」旗揚。現在は東京に拠点を移す。2000年第一回利賀演出家コンクールで最優秀演出家賞受賞。今年3月まで調布市せんがわ劇場芸術監督。09年「プロジェクト ナッター」立ち上げ、今年2月の東京室内歌劇場オペラ「ゲノフェーファ」演出など活動の幅を広げている。現桐朋学園芸術短期大学演劇専攻科准教授。(撮影：青二才晃)



### ■篠崎光正

慶応義塾大学文学部卒、桐朋学園大学短期大学部演劇専攻卒。『フナよ、木から下りてこい』（芸術祭優秀賞）で演出家として認められ、『ドラム一発！マッドマウス』（芸術祭大賞の1作）、ミュージカル『光の彼方に』（芸術祭優秀賞）等を演出。ミュージカル『アニー』（青山劇場他：15年ロングラン）、『風と共に去りぬ』、『ジプシー』、『美女と野獣』、『ある馬の物語』（東京都優秀児童演劇選定）他にも数多くの賞を受賞。演劇研究にも手を広げ、短期演技養成法「篠崎光正演技術」を考案。シノザキシステムで養成した俳優は竹中直人、野田秀樹等3000人を数え、日本の俳優養成のエキスパートとして活躍中。現在電劇代表、シノザキスタジオ主宰、日本演出者協会理事。



### ■和田喜夫

1951年山口県下関生まれ。早稲田大学在学中より演出を始める。文学座養成所を経て、1982年から11年間、劇作家・岸田理生との共同作業を続ける。92年オーストラリアのアデレード、パース国際演劇祭で『糸地獄』を上演し絶賛を得る。01年よりオーストラリアやカナダの先住民の劇作家との共同作業を始める。また「在日」の演劇人との共同作業も多い。代表作に『糸地獄』、『居留地姉妹』、『ウィンドミル・ベイビー』など。演劇企画集団 楽天団代表。日本演出者協会理事長。

## ■シンポジウムパネリスト

### 古川薫



田中絹代ぶんか館名誉館長・作家。中学校教諭、山口新聞編集局長、企画室長を経て、文筆生活に入る。91年藤原義江を描いた「漂泊者のアリア」で第104回直木賞受賞。書物は「暗殺の森」「花も嵐も一女優・田中絹代の生涯」など多数。郷土の歴史に根ざした文学作品を多く執筆する。オペラ台本「わが愛せしジバング」、テレビ・ラジオドラマ多数。演劇的手法を駆使した作品も多く、「夕顔殺人事件」「狂雲われを過ぐ」などが有名。

### 武部忠夫



下関市在住。1953年劇団海峡座を創設。上演数は東京・大分・釜山公演を含め350回以上、県内学校巡回舞台60回以上。KRY山口放送表彰・県文化功労賞を受賞。現在、下関短大付属高校非常勤講師。

### 藤田典子



演劇鑑賞サークル・下関市民劇場事務局長。平家物語を題材にした現代劇の最高峰、木下順二作「子午線の祀り」の歴史的初演の幕開きに尽力。第21回毎日芸術賞を上関関係者の1人として受賞。

### 加藤孝明



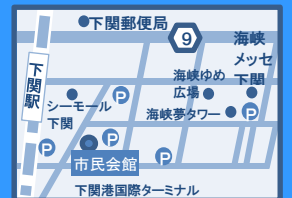
劇団新波団長、演劇大学2011実行委員長。脚本家・演出家・俳優。2011年劇団新波30周年記念公演「good-good bye」脚本・演出。他映画出演、ラジオドラマ、企業講習講師など多岐に渡り活躍。

## ■演劇大学サポートの会

藤田典子（下関市民劇場）、金森健一（山口県高校演劇連盟）、倉本 昭（梅光学院大学教授）、植田勝義（市民文化ボランティア）、中尾鏡子（下関市民会館ボランティアの会代表）、石松義國（劇団かもめ代表）、奥野保正（宇部芸術座代表）、藤中和岳（市民文化ボランティア）、渡 義昭（ボイストレーナー）、武部忠夫（劇団海峡座主宰）、超演劇集団 VIT  
＜敬称略、順不同＞

日程 7 / 7 (木) ~ 10 (日)

会場 下関市民会館



(下関市竹崎町 4-5-1 TEL083-231-6401)

文化庁委託事業 「平成23年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」  
共催 (財)下関市文化振興財団 後援 下関市教育委員会、下関市文化連合会、山口新聞社  
制作 日本演出者協会 (03-5909-3074)・演劇大学2011inしものせき実行委員会 (劇団新波内)